



笑顔あふれる学校・思いやりあふれる学校・チャレンジあふれる学校  
 令和2年度 飯野中学校 学校だより 第64号  
 自律 挑戦 志保井が丘 協働 創造  
 2020.11.30 発行 文責 校長 目黒 満  
 教師・保護者・地域がみんなで見守り、みんなで育む学校



## 学校評価アンケート結果の分析・考察その3 <教育目標「協働」について>

### <設問 11> 命の大切さ・思いやりの心

### <設問 12・13> 安心できる集団・楽しく意欲ある学校生活

来年度から、新たな学力観や生きる力の考え方、授業の質の向上を目指した新学習指導要領が中学校で全面実施となり、学習事項の入替えや削除、学習内容の追加等、様々な取組が始まります。その一つが道徳教育で、本校では今年度から新たな考え方で毎時間の授業を進めています。また、本校は、学級数・生徒数の減少により教員数が減り、現在、各学年3名の職員体制で学校運営をしています。全職員がそれぞれの学年生徒の担任という意識で、日々教育活動にあたっています。こうした取組の一環として、学年の先生方+教務主任の10名を3学年グループに分け、年間の道徳授業ローテーションを組み、全員交代で指導しています。

生徒は、担任だけでなく他の先生の道徳授業も受けることで、多様な価値観や考え方、生き方を学び、考え、議論することができるものと考えます。

設問 11・12・13 は道徳の時間を中心に、すべての教育活動を通じて指導することで、社会の一員として集団の中で、誰とでも協働し、よりよい集団を創っていくための素地となる大切な部分だと考えます。



いずれの設問に対しても、生徒の回答はプラス評価が全体97%と高く、学校で大切にしている思いが伝わっていると考え、とても嬉しい結果です。保護者回答では、全体的な傾向と同様で、生徒よりも厳し目の結果となっています。この内容は学校での指導も大切ですが、保護者や家族からも「人としてどうあるべきか」という視点から家庭でも育ていく必要があるものと捉えます。学校と家庭、地域が同じ意識で「社会を形成する一人の人間として大切な資質能力」と捉え、生徒とそれぞれの立場の大人が積極的に関わり、よりよく育てていきたいと考えます。

### <設問 14> 一人一人をよく見てスピーディな対応

生徒回答ではプラス評価が全体で96%と昨年度と同じ、保護者評価は89%と昨年度比+4%と若干のUPが図られました。しかし、まだ90%未満なので、さらに取組を強化していきたいと考えます。

スピーディという面では、生徒間のトラブル等の発生の際には、学校として必ず、その双方から公平に話を聞くと同時に、トラブルを見ていた周囲の生徒から客観的な状況を確認します。時には、目撃者がいなくて、双方の言い分が異なり事実が正確に把握できない場合もありますが、そういった場合には若干時間がかかる旨を保護者にも連絡をしています。

また、一人一人という面の一つでは、学校になかなか足が向かない生徒への指導も当然含まれます。令和元年度調査では、年間30日以上欠席の中学校の不登校生徒数は127,922人という現状と同様に、本校でも今後もさらに取組を進めていく必要が高まるものと考えます。

欠席の場合、本校では、ほぼ100%の家庭から、電話で欠席連絡があります。電話がないまま登校してこない生徒の家庭には、必ず朝のうちに電話で確認をします。欠席が2日続けば、必ず連絡をとり、生徒の状況を確認し、3日欠席が続けば家庭訪問をします。1週間以上にわたる際には、必ず家庭訪問を行い、本人の顔を見て話し、状況を確認しています。中には、様々な理由があって、長期に欠席がわたる生徒もいますが、必ず定期的に家庭訪問を実施し、顔を見られない場合であっても保護者と話したり、ドアや窓越しに生徒の姿を確認し、声をかけてくることで学校との関係をつないでいます。



(また、本当に残念な部分なのですが、昨今、全国的に身体的虐待・性的虐待・ネグレクト・心理的虐待等の児童虐待による事件が多発していることもあり、特に1週間以上の長期の欠席で、かつ本人の意志や思いが直接会って確認できない場合については、学校として、保護者による「学校に行かせない」というネグレクト(養育の放棄)にあたる可能性も視野に入れて対応しなければなりません。

学校には、生徒の人権や命を守るための通告義務があります。虐待の可能性がある場合は保護者の意志に関係なく、児童相談所等に通告しなければならないという消極的な理由も、もう一方にあります。本音を言えば、こんな疑いを持って対応するのは本当に嫌ですが、それを許さない昨今の緊迫した情勢があります。

事によっては、生徒の命や将来をも左右しかねない状況避けるための学校の対等となることもご理解いただきたいと思ひます。)

### <関連> 保護者の自由記述から

- 仲間、友だちをけなすのではなく、できない子がいれば一緒にがんばってあげられる、助けてあげられる心を教へてほしい。「できない」を責めても前に進む力にはならないので、もちろん、自宅でも話しています。(1年)
- 誰もが持つ「個性」を子どもたち一人一人が受け止め、受け入れられることのできる生徒であってほしい。(1年)
- 学校に來られない子たちを、他の子どもたちに声かけするように言っているようですが、それも大切ですが、本人の問題の所もあると思ひます。(家の方が楽しいからと言っていたり、ただ行きたくないからとか)それが許されると、ちゃんと來ている子どもたちには悪影響だと思ひます。(ズルイと感じている子もいるようです。)(2年)
- 中学校生活は人生の中で楽しいことも大変なことも経験する大切な時期だと思ひますので、今後とも一人一人に寄り添っていただき、子どもたちにとって大人になった時に、良い中学校生活だったと思へるよう今後ともよろしくお願ひいたします。(3年)
- その子、その子にあった関わりをしていただいていると思ひます。3年生も終わりにだんだんと近づきつつある今、精神的にも成長したなと思ひ、先生方に感謝です。(3年)

貴重なご意見ありがとうございます。学校でも日々、こういった「心」「個性」を大切に生徒と関わっています。学校も家庭も同じ思ひで、生徒に接していくことで、こうした思ひを持った大人に育っていくのだと思ひます。

だれもが不登校になる可能性を持っていると専門家は言っています。学校に來ることに抵抗を感じる、学校が苦しい、集団の中に入ることが辛い、集団が怖い等の悩みや特性を持っていたり、ある日突然それを感じる生徒もいます。また人前で元気に明るくおしゃべりすることが好きな生徒もいれば、一人で静かに読書をしているのが好きという生徒もいます。それが個性、それこそ誰もが持つ個性ですので、それを尊重し、一人一人を大切に、居場所をつくり、集団での自分の価値を見つけ、将来の自立につなげて行くのが学校の大切な役割です。

そうした生徒を見てズルイと感じるのはなぜか、それを見て自分はどうしたいのか、それはなぜなのか、そういったことについてじっくりと、家庭で話をしてみたいと思ひます。きっと、お子さんは正しい判断をすると思ひます。

### <設問 15> 地域の人々との様々な活動の機会

注目

本校では、昨年度までは2年生の職場体験を軸に、1年の福祉体験や社会人に聞く会等で地域の方々から話を聞いたり、地域・外部の人と一緒に体験する活動を行っています。3年生の家庭科では認定こども園等で保育体験を毎年実施し、実際に作った絵本等で幼児と接しています。文芸部では、学習センターのイベントやつるし雛まつりでのボランティアガイド等の活動で好評を博したり、音楽部ではホコ天や診療所等のイベント、敬老会での演奏等で大きな拍手をもらうなど、年間を通して様々な地域活動の機会に活躍してきました。また、全校生で母校の小学校に出向き、奉仕活動にも取り組んできました。



ですが、今年度についてはコロナ感染予防対策のため、そのほとんどが中止とせざるを得ない状況となってしまいました。その結果、この設問の生徒評価はワースト1位、保護者評価はワースト3位。とても残念でなりません。

現在、コロナ感染拡大第3波の真っ只中(?)のような状況の中、ウイルスが活性化する寒冷期・乾燥期を迎える季節をどう乗り切っていくか、次年度の体験活動がどのような形で実施できるかを日々悩みながら、チーム飯野中の知恵を結集し、模索していきたくと思ひます。一つ言えることは、「これまで通り」は無理なので、「感染予防対策の徹底と工夫」をして、「できること」を模索し、次年度に向けて意義のある地域との活動を創っていきたくと思ひます。

### <関連> 保護者の自由記述から

- コロナ禍の大変な中、大変お世話になり、ありがとうございます。制限は今後も続きますが、その中でできることを生徒なりに考えて学んでほしいです。今後ともよろしくお願ひいたします。(1年)

自分自身も、中学校時代の友だちとはいつでも笑顔で再会でき、一番盛り上がります。コロナ禍でも、感染予防対策を徹底することでできることを広げし、できる限り充実した学校生活を送らせてあげたいと強く思ひます。